



祐介の目

大田ゆうすけ
(福山市議会議員)

No.44

毎月1日号に掲載

し、片山はグランプリライダーとして一番良い時期を無駄にしたと言われている。モトクロスにおいてもより車体の軽量化が求められるため、開発陣は社長に内緒で2サイクルのモトクワッサーを開発した。それは映画俳優ステイブ・マックイーンをCMに起用したエールシノアだった。本田宗一郎は自分の知らない自社製のオートバイに驚いたとか。

2サイクルと4サイクル

私が16歳の時に初めて乗ったオートバイはホンダCB50であり、4サイクルエンジンを搭載していた。このエンジンは60年代に本田宗一郎が2輪世界グランプリに挑戦した際の遺産とも言え、わずか50ccのエンジンに4サイクルの精密なメカが詰め込まれていた。しかし、当時のオートバイ業界は2サイクル全盛期であり、軽量で安価で加速に優れる2サイクルは、レースの世界でも完全に4サイクルを凌駕していた。私もCB50から2サイクルのマハRRZ50へ乗り継いだ。

ところで、本田宗一郎は2サイクルが大嫌いだった。70年代末、ロードレース最高峰GP500において、NR500という当時の常識を逸脱した楕円ピストンエンジンを搭載したマシンに、エースライダー片山敬済を乗せて他社の2サイクル勢に対抗した。成績は低迷

時代は流れ、排ガス規制の強化と共に2サイクルのオートバイはほぼ姿を消した。そしてホンダはオートバイ販売台数で世界首位をキープしている。私は、本田宗一郎が4サイクルにこだわった成果が今頃開花したと感じている。あらゆる業界で時代の流れに乗るべく、従来の技術や手法を否定する動きがある。あたかもそれが正義であるかのように振舞う人もいる。しかし2サイクルと4サイクルのように、30年という長いサイクルでの見直しは大きな教訓ではないか。創業者の経験と勘は大切にすべきだ。私が乗っていたCB50型エンジンには長らく生産中止であったが、近年エイプ50に搭載され復活した。免許を取って30年、感慨深いものだ。

